

チェックポイント

せっこうボードのジョイント部のクラックの発生原因は、建物の動き、せっこうボードの留付け不良、ジョイント処理の不適切など様々な要因が考えられますが、塗り作業をする前に施工状態をチェックし、必要に応じて処置することでクラックの危険性を軽減することができます。

現場名

確認年月日

年 月 日

(1) 取付方法、留付け間隔（該当する所に実寸を記入して確認しましょう。）

下地	部位	取付方法	留付け間隔（mm）	
			周辺部	中間部
木製	壁	釘・ビス	100～150	150～200
		釘・接着剤併用	350～450	
	天井	釘・ビス	90～120	120～150
		釘・接着剤併用	250～350	
鋼製	壁	ドリリングタッピンねじ	200	300
		クリップ	タテ300	ヨコ225
	天井	ドリリングタッピンねじ	150	200
コンクリート コンクリートブロック	壁	接着剤 （直張り用接着剤）	150～200*	床上 1.2m以下 200～250*
	梁		100～150*	床上 1.2m以上 250～300* 200～250*

※塗り付けた接着材の中心間距離

該当する方に丸を付けましょう。

(2)	ボード周辺部は、端部から 10mm内外内側の位置で留め付ける。	適切	不適切
(3)	木製下地に釘打ちする場合は、ボード厚の3倍内外の長さの釘を用い、頭が平らになるまで十分打ち付ける。	適切	不適切
(4)	鋼製下地に対するボード張りは、鋼製下地の裏面に10mm以上の余長が得られる長さのドリリングタッピンねじを用い、頭がボード面に沈むまで十分締め込む。	適切	不適切
(5)	コンクリート下地などに対する直張り工法による施工は、接着材を十分盛り上げ、ボード裏面との接触面が直径120～150mm得られるように押しさえつける。	適切	不適切
(6)	平坦な下地面にせっこうボードを接着する場合は、接着材を帯状に塗付して十分圧着する。	適切	不適切
(7)	二重張りの場合、上張りは接着材に加えてステーブルを用いて縦・横 200～300mmの間隔で留め付ける。 なお、上張りとは下張りのジョイントが同位置にならないようにする。	適切	不適切
(8)	天井は、中央部分より張り始め、順次四周に向かって張り上げる。壁は、継ぎ目などの位置に正しく、いずれも目地通りよく不陸・目違いのないように取り付ける。	適切	不適切
(9)	開口部の角にジョイントを設けない。	適切	不適切
(10)	開口部は、一枚のボードを切り欠いて割り付ける。	適切	不適切
(11)	開口部まわりなどのひび割れの発生のし易い部分にはあらかじめガラス繊維製ジョイントテープを張って補強する。	適切	不適切
(12)	ジョイント部分が適切に処理されている。	適切	不適切
(13)	出隅の処理 ボードの切断面（せっこう）が出ないようにする。または、吸水調整材を塗布しておく。 ----- コーナーボードが浮いてる場合はへりの部分に釘を打込み、抑えるようにする。 ----- パテを塗る前に、テープが十分に接着しているか確認。	適切	不適切
(14)	入隅の処理 ボードの継ぎ目に木下地を入れておく。	適切	不適切
(15)	ボードに欠けている部分があれば予めパテ等で補修しておく。	適切	不適切
(16)	内装制限がある場合は、法定防火材料を用いる。	適切	不適切
(17)	メーカー指定の塗り仕上げ材専用下塗材を使用する。	適切	不適切
(18)	下塗材を施工した後、塗り仕上げ材を施工するまでにメーカー指示の養生期間をとる。	適切	不適切
(19)	下塗材及び塗り仕上げ材の練り混ぜ液は、必ず指定量の水を使用する。	適切	不適切